

家庭科の男女共修をすすめる会

# 会報

'92 夏

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11  
婦連会館内  
振替 東京九一 一九一八九一

〒151

発行 一九九二年六月一三日

## 一九九二年度 総会 報告

一九九二年度総会は、桜が満開の四月四日新しくできた渋谷女性センター・アイリスで開かれました。

はじめに、会則に相当する「運動のすすめ方について」を修正して2ページのように決めました。教育課程がすでに改定されたので、「次の教育課程の改定に際して」という字句

が必要なくなったためです。

続いて九一年度総括は報告の通り、九一年度決算は一部費目を修正して承認されました。

九二年度世話人は提案通り、九二年度の運動方針と予算は一部修正をして決定しました。(詳細は2、4ページ)

司会 和田典子 記録・まとめ 梶谷典子

### 母親大会へどうぞ

今年の母親大会は次の日程で東京で開かれます。

・分科会 八月二十二日(土)

会場はいくつにも分れますが、会場で担当する男女平等教育それぞれ

のためには、国立市の一ツ橋大学で行われます。

・全体会 八月二十三日(日)

東京ベイNKホールで

詳しい内容、会場の場所等については同封のちらしを御覧ください。

なお、男女平等教育の分科会は、はじめは

### もくじ

一九九二年度総会報告	(1)
母親大会へどうぞ	(1)
学習交流会「男子の家庭科2」	(5)
国際婦人年連絡会の動き	(9)
世話人会報告	(10)
新「We」読者の会から発行	(11)
家庭科の先生がベスト・メンに	(11)
アジア女性会議で	(12)
マスコミの取材あいつぐ	(13)
高教組春闘学習会で(宮城)	(13)
私立男子高訪問(宮城サークル)	(14)
文部省教育助成局訪問	(15)
乾議員と文部省を訪問	(16)
'92 We夏のフォーラム	(16)
第27回家教連夏季研究集会	(16)

今年の予定には入っていませんでしたが、重要な問題だからやらなければいけないと、会として強く主張して実現にこぎつけたものです。ぜひ成功させたいと思います。出席御希望の方は榎本稲子世話人に御連絡下さい。(当日でも参加はできますが) ※ ☎ 〇四八・八三二・七三三三

# 家庭科の男女共修をすすめる会 運動のすすめ方について

## 一、運動の目標

全国の中学・高校で家庭科の男女共修を実現させることを目標とします。

## 二、運動の内容

1. 共修の確実な実施のために、文部省、各自治体、各学校や関係者に働きかけます。
  2. 共修をすすめるための参考になるよう、教科内容についての研究や情報交換をすすめます。
  3. 共修の問題についての関心を高めるため、教員、父母、生徒、教育団体、文化団体、消費者団体、婦人団体、マスコミ等に広く働きかけます。
  4. 各地域の同じ目的を持ったグループとの連帯をすすめます。
  5. 1と4のために必要な文書を発行し、必要に応じて集会を開きます。
  - 三、会員Ⅱ運動に参加する意志あるいは運動についての情報がほしいという希望があれば、他の資格は必要としません。
- ただし、個人加盟を原則とします。

会員は会費を納入します。

四、世話人Ⅱ会員の中から世話人若干名を選出します。

世話人は日常活動に必要なことから決定し、各地域で運動を推進します。

五、総会Ⅱ一年に一回総会を開きます。

会の運営についての基本的なことがらの決定は、総会で行います。

六、会報Ⅱ一年に四回会報を発行し、会員全員に送ります。

七、会計年度Ⅱ会計年度は四月から翌年三月までとします。

※新しくなったのは二一1です。前の二一1、2をひとつにまとめて表現を変えました。それにもなつて二一3、4、5、6をくり上げて二一2、3、4、5としました。

## 討 論 か ら

意見がかわされたのは主として予算についてでした。

世話人の交通費等も予算に計上すべきだという意見が出ましたが、結局電車賃は事務局のアルバイトについて、電話代は事務局担当

## 一九九二年度世話人

提案 芦谷 薫

北海道 齊藤節子 山形県 佐藤慶子  
宮城県 西原典子 福島県 西内みなみ  
埼玉県 磯部幸江 榎本稲子 柴田栄子  
東京都 中嶋里美 羽賀紀子  
青山和世 芦谷 薫 石川由紀  
梶谷典子 駒野陽子 坂本ななえ  
半田たつ子 樋口恵子 丸山新男  
和田典子  
神奈川県 持田ナミ 新潟県 小野塚サチ子  
長野県 山浦恒子 岐阜県 橋本登志子  
石川県 荒井紀子 木下雅子  
鳥取県 本橋靖子 島根県 大利良枝  
兵庫県 香川敦子 岡山県 丹原恒則  
熊本県 立山ちづ子 沖縄県 喜久川幸子  
計三十一名

と経理担当についてだけ、一定額を「会」から出すことにしました。ほかの場合については、これまで通り行動する人が負担します。郵便振替による会費の納入に対しては、領収書を改めて出さなくてもよいのではないかとこの発言もありましたが、これもこれまで通り領収書を出すことに決めました。

## 一九九一年度 総 括

報告 梶谷 典子

九一年度中に行った活動を確認した上、次のように総括しました。

文部省も各自治体も、家庭科男女必修のためにははつきりしているが、確実な実施のための具体策は極めて不十分である。各学校でも少しずつ実施に向けての動きが出て来ているが、まだ確かな状況ではない。

趣旨の徹底、施設・設備の充実、教員の確保に向けて一層の運動が必要である。

九一年度の「会」の運動として特筆できるのは、学習交流会「男子の家庭科」の開催とリーフレット「すすめましょう男子の家庭科」の作成だが、一年間十分な運動ができたとは言えない。

何としても人手が足りず、一部の世話人の負担は殆んど限界に達している。

この困難な状況の中では、重点をしばって運動をすすめる必要がある。

## 一九九一年度 決 算

報告 榎本 稲子

収入Ⅱ九三三八〇七円。支出八三三〇四円。一二〇七〇三円を九二年度へ繰越し。詳細は下の通り。

収 入 の 部					摘 要
項 目	1991年度 予 算	1991年度 決 算	比 較 △ 減		
前 年 度 繰 越	51,054	51,054	0		
会 費	875,000	840,000	△ 35,000	3,500円×240人	
集 会 参 加 費	20,000	18,500	△ 1,500	500円×37人	
雑 収 入	0	24,253	24,253	利息 14,195.- カンパ 10,058.-	
計	946,054	933,807	△ 12,247		

  

支 出 の 部					摘 要
集 会 費	1991年度 予 算	1991年度 決 算	比 較 △ 減		
集 会 費	15,500	6,864	△ 8,636	講師交通費 2人分	
報 告	印 刷 費	260,000	195,868	△ 64,132	会報 夏号1000部+別刷秋号650部 冬・春号500部
	送 料	77,400	91,000	13,600	切手代
	運 搬 費	5,000	4,570	△ 430	
	小 計	342,400	291,438	△ 50,962	
維 持 費	アルバイト費	260,000	260,000	0	20,000円×13ヶ月分
	事務所借料	84,000	84,000	0	(6000円+光熱費1000円)×12ヶ月
	小 計	344,000	344,000	0	
分 担 金	52,000	52,000	0		日本青年団協議会 国際婦人年連絡会 母親大会実行委員会
通 信 費	30,000	36,455	6,455		学習会4/4呼びかけ葉書、世話人会報告、切手
事 務 費	30,000	10,977	△ 19,023		角印4,000.-、コピー、消耗・事務用品
リーフレット費	80,000	52,122	△ 27,878		印刷・運搬代
アンケート費	10,000	9,376	△ 624		コピー、切手
雑 費	42,154	9,872	△ 32,282		資料8冊 学習会4/4参加呼びかけ印刷送料
合 計	946,054	813,104	△ 132,950		

# パンフレット会計

一九九〇年度までの繰越金  
一〇八三三・一六円  
一九九一年度売上 六五七八七円  
一九九二年度へ繰越  
一一四九一・〇三円

## 一九九二年 運動方針

提案 青山 和世

### ●基本的な考え方

中学校では一九九三年度から、高等学校では一九九四年度から男女共修の家庭科が実施される。

家庭科関連の施設・設備の準備は少しずつ進展がみられるが、教員の確保は進んでいない。

共修を確実なものにするためには、重点的な運動が必要である。

### ●具体的な活動

I 今年度は次のことを重点目標とする。

1. 家庭科教員を増やすための働きかけを行う。
2. 共修が進まない学校に働きかける。
3. 男女平等教育についての認識を高める。

II Iの実現のために、次のように活動する。

## 一九九二年 予算

提案 榎本 稲子

### 収入の部

項目	予算	摘要
前年度繰越	120,703	
会費	840,000	3,500円×240人
集会参加費	32,000	800円×40人
雑収入	7,000	預金利子
合計	999,703	

### 支出の部

集会費	50,000	謝礼、交通費・資料代、会場借料
会報		
印刷費	250,000	振りこみ料含印刷費500部 4回分及び増ページ分
送料	90,000	切手代62円×300×3回+72円×300
運搬費	5,000	タクシー代
小計	345,000	
維持費		
アルバイト料	274,000	20,000円×13ヶ月分+交通費(380円×3回×12ヶ月)
事務所借料	84,000	7,000円×12ヶ月
小計	358,000	
分担金	40,000	母親大会3万 国際婦人年連絡会1万
通信費	45,000	世話人会報告、切手
事務費	44,000	コピー、事務用品、封筒 電話代(1000円×2×12ヶ月)
雑費	10,000	
予備費	107,703	
合計	999,703	

1. 次のところに働きかける。

- ①文部省 ②各自治体特に教育委員会
- ③国会及び各議会 ④各学校 ⑤総理府
- ⑥教育や女性問題に関係の深い各団体や個人 ⑦マス・メディア

2. 次の活動はこれまでどおり行う。

- ①世話人会の定期的開催 ②会報の発行(年4回)
- ③パンフレットなどの販売及び活用 ④共通の目標を持つ諸団体との連帯 ⑤入会勧誘

## 学習交流会「男子の家庭科2」

——私立高校のとりくみを中心に——

四月四日 渋谷女性センター・アイリスで

総会に先立って、同じ会場で学習交流会が開かれました。テーマは去年に続いて「男子の家庭科」、去年は「男子校」、今年は「私立高校」のとりくみを中心としました。

司会 中嶋里美 和田典子  
記録・まとめ 青山和世

### 1. 全国の概況

(1)和田世話人から 男女共修家庭科実施の全国状況、家庭科の学習指導要領の現行・改訂の比較、家庭科共修の根拠となった女子差別撤廃条約の成立経過などが報告された。

(2)東京私教連の教宣部長 中原宣さんのお話  
東京私教連の場合に家庭科の分科会を設けてはいませんが、日常的なサークル活動にはなっていないので、状況把握も不十分で今日は一般的な話になると思います。

数年前から私学ブームがあって、生徒数減にもかかわらず私学受験者は増加傾向にありましたが、今年度はいくつもの例外的な学校を除いて軒並定着率が悪くなっています。有名進学校をとりまく塾・予備校など市場原理が高校受験で導入されているなかで、多くの

父母に支持され、子どもを真に育てていけるような学校づくりが、追求されていかなければならないと思います。

そんななかで、家庭科の男女共修は初年度の段階では少ないのではないかと予想しています。施設、専任の採用という面でも、男子校ではコンピュータをやらせて代替とか、夏期に実習をやらせて単位認定するとかの便法をとることになるのではないかと。進学校では受験科目偏重で家庭科が犠牲にされるのではないかなど。また、都心の男子校の場合のネックは施設で、同時に家庭科という教科が多くの教師に認識されていないこと。私自身も明治学院高校で昨年4月から男女共修家庭科を実施するために実施校を訪問して調査するまでは、料理・裁縫の教科だと思っていました。家庭科が家庭生活を通じて社会や自然を見つめていく総合的な教科だという理解がうすいため、自分の学校にどう位置づけるかが明確にならない。上から言われるから考えるというのが現状ではないかと思っています。あと学校五日制とからんで「精選」の犠牲になる可能性があると思います。やはり、家庭科

### 2. 各学校のとりくみ

(1)大平初枝さん(明星学園高校)のお話

家庭科と保健科の教師として就職し、新設教科の保健科の教育目標には、男女は平等に生き、健康な身体を鍛え、民主的な家庭をつくと書いてありました。これは家庭科でも同じではないかな、また、女子だけが家庭科男子が体育をすることに疑問を持って、教師になって初めて女子だけの家庭科の歴史を調べることになりました。明治から戦後まで、教育で女子を家で料理・裁縫をし、夫のために女をつくってはならないというのが趣旨であることがわかってきました。このような家庭科に疑問を持っている家庭科教師がたくさんいることも知り、サークルに加わり学習し、女子だけの家庭科で女性史の授業をしました。授業のなかで生徒が、このような授業ならば男子にもいいんじゃないのとの声から、家庭

共修を進めていくことは学校づくり教育づくりの課題なのだろうと思います。共修の実践が広く知られていないのと、東京の私学でも家庭科が女子校中心に実施され家庭科の先生も女子校に多いので、男子校の問題ということがまだ捉えきれない現状で、今後きちんと対応していかなければならないと思っています。

科の授業を女性史に組み替えました。それから数年たって父母会の席上で、授業についての疑問が出されたとき、別の母親から賛同を得たこともありました。職員会議でも家庭科の共学を訴えましたが、教科構造で科学性を明確にしにくく、雑学的要素が多いためなかなか賛同を得られませんでした。

検討期間を2年おいて、今から約20年前にようやく共学が実現しましたが、生徒は反抗するし、先生間でも反応はさまざまでした。授業は、なぜ女子だけが家庭科を学ぶことになったのかから入り、結婚や家族の形態の時代別の特徴を中心に、戦後から現在に力をしぼって、家庭史・男と女の人間の歴史を学習し、性と愛の問題について公娼制と性の商品化を含めた保育の授業をして、3学期には12月に国家予算ができるので、生徒に身近な家庭経済をやっているわけです。授業の最後に「わたしの歴史」「家族の歴史」という題で書かせたものをまとめた冊子がここにあります。表紙もみな生徒が描いて、昨年の、湾岸戦争があったので、鳩と裏に油まみれの鳥で、なかには痴呆性老人の問題、単身赴任の問題などがレポートされています。

#### (2) 明治学院高校

##### ① 共学実施の経緯（中原宣さん）

創立以来、男子校でしたが、一九八六年に男女共学の検討を始めました。本学は校長の

ない性ということとでぴんとこないのだなということがわかりました。男の子は卒直な意見を出してくれて、女の子はがまんして聞いてくれたのだなということもわかりました。(3) 栗原澄子さん（成蹊学園中・高校）のお話  
今年の4月から高校で男女共修の授業をしますが、実施までの過程をお話します。私は成蹊中・高校に行って12年、専任は私一人で、講師の先生二人に助けられて、中・高の授業をしています。中学校は男子2対女子1の比率で、芸術科の先生が技術を教え、男女別学です。男女一緒に教えたいということが中学校のなかで伝わっていかなくて、高校から先にと考えるようになりました。高校は私が就職する数年前までは女子のみ必修であつたのですが、就職した時にはなくなっていました。一九八一年のカリキュラム委員会では男女に家庭科を教えたいと強調しましたが、通りません。高1で女子に2単位、その時男子は帰ることが決まり、それが今年の3月まで続きました。生徒にとっては、時間割と家庭科教師への不満もあり、授業が非常にやりにくかったです。しかし、一年終わっての感想文に、時間体制の不満はあったが、学んで良かった。学ばない男子は損をしたという内容のことをたくさん書いてくれました。そこで、親にも教師にもわかってもらいたいと思って、感想文をPTA通信に2回にわたつ

み管理職であとは平教員で、校長も選挙で選ぶので、決議に時間がかかり動かないが、一人ひとりの教育実践の自由は保障されている学校です。生徒の急減期を迎え、6年前に学校をどうしていくかを皆で話し合い、いろいろな意見の一つに男女共学もあり、意見を淘汰して残ったわけです。それには二つ柱があって、一つは今まで進めてきた明治学院の民主教育をなぜ男子だけとするのかということと、生徒減少期の生き残り作戦としてレベル低下を防ぐということがあったと思います。共学が決まって、学校教研、組合教研を積み上げ、教育内容検討委員会を校務レベルで作成、カリキュラムの検討段階で家庭科の問題が出てきた。一九八六年12月に決まり、一九九〇年度から実施の予定が調査が遅れて一九九一年度から実施になった。カリキュラム編成では体育科が理解ある態度を示して2単位他全教科から1単位ずつ放出してもらい、計9単位のうち4単位を家庭科に、残りの5単位は大学への移行試験科目に割りふる形になりました。一九九六年度に完成するカリキュラムでも家庭科は4単位となっています。

##### ② 高橋安子さんのお話

一年男女共修家庭科を教えてみて、案ずるより産むが易しということと、これで良かったのだろうかという迷いのなかにいます。家庭科を食べたり縫ったりするイメージで

て「高校家庭科の教室から」として投稿しました。また、たまたま中学校で担任した問題意識を持った男子が「家庭科一年間受けてみるよ」といい出し、その子がいたために男女で話し合うことができて良い授業ができたというようなこともPTA通信に載せました。

本校も校長を選挙で選ぶのですが、4年前に校長が代わった段階で、校長のところに生徒の感想文を送って心を動かしたいと思いました。それがすぐに結びついたとは思いませんが、所信表明で校長は家庭科共修についても前向きに考えたいと言ってくれました。それを教科会で話し合い、カリキュラム改訂の研究課案として高校家庭一般男女共修を約90名の中・高の合同職員会で一九八九年圧倒的多数で決まりました。しかし家庭科の2単位分をどう調節するかとても大変でした。昨年度から発足するはずだったのが今年になり、妥協の妥協でやっときまって、これから不安いっぱいだと思います。しかし、ここまできたらやるしかないと思っています。

##### (4) 岩淵由里香さん（神奈川大学附属中・高校）のお話

今日は6ヶ年一貫教育の中でのカリキュラムについてお話しします。本校は7年前男子校として新設され、4年前から女子入学が始まった大学附属校です。技術・家庭科は、4年前に家庭科の非常勤講師の先生の強い希望で、

捉えている子どもも多いのではないかと、もっと奥が深いものと知らせるために、最初に柏日体の畑沢先生が使っていた資料で授業をまねさせてもらいました。家庭科で何を学ぶかについての切り抜きを生徒に3枚ずつぐらい集めさせ、班討論するものでした。さらにクラス討論させ、家庭をとりまく諸問題、家庭科で何を学ぶかで8時間。このなかで、男女共修の意味、男女の役割分担のこと、子どもたちが持ってきたゴミの問題などさまざまなことが出てきました。6月初めから食物に入り、調理実習4回で30時間程、米の自由化、農業問題、添加物、農業問題など消費者教育を入れて、最後には自分の食生活に関する問題点をみつけてレポートを提出させました。11月なかばから保育の授業に入り、愛と性については、生命誕生は保健でやるので割愛して、河野美代子先生のビデオ「産婦人科室から」を見、高校生どうしの妊娠という資料と性の商品化について話し合いをさせました。本当に男女で良い話し合いができたと思っています。保育では、発達・胎児診断のビデオを見て、発達障害から障害者のこととありあげ、一年を終わりました。

反省点は、新聞の切り抜きで間口を広げすぎたこと。今年は男女の役割分担にしばって切り抜きし、家族の問題を煮つめてみようと思っています。保育については、男子は産ま

中学校の男女共学が開始され、3年前に赴任した私は最初から共学家庭科を実施することができました。しかし、将来的には技術科2名と家庭科2名とで中学1年から高校1年までの4年間を担当するところを、昨年は技術科2名、家庭科1名で運営しました。

次に、高校の方ですが、本学では女子が高校に上がった後も家庭科はかかないと聞き、新卒でしたが、これでは困ると「高校家庭科指導計画書」を校長に提出し、さらに、男女共学の家庭科をアピールするために中学1年の研究授業「健康で安全な食生活」で合成着色料の検出実験をしました。校長・副校長をはじめ多くの先生方が見に来てくださり、ある程度の目的は達成できたと思います。また、高校家庭科実現に向けても各教科で話し合ってもらおうと各単元設定の理由と指導案を4月の教科主任会に提出しました。女子が高校に上がる九一年度から男女共学にはなりませんでしたが、女子のみ履修と、九四年度からの男女共学4単位履修が約束されました。ここで、教科内で問題が起きてきました。中学・高校の家庭科・技術科を各2名で運営しなければいけないのですから、高校家庭科も技術科の応援が必要になってきます。技術科のほうから名称を生活技術に変更したらどうかという意見が出てきました。そこで技術科の先生方と一緒に、鈴木敏子先生（横浜国大）

を訪問したり、「すすめる会」世話人をお迎

えし校長を含めて座談会を行ったりして「生活技術」「生活一般」の問題がわかってきました。しかし、教員数の関係などから、技術科の領域をとり入れなければならない実情から「生活技術」にしましたが、内情はあくまで家庭一般の立場に立ち、衣食住に重点をおいて行うようにしました。カリキュラムを作っていくなかで、子どもに生きる力を養う教科として男女一緒にやることに大きな意味があるということを、生徒・教員・保護者に理解してもらうことが重要だということを感じました。

### 3. 話し合い

●高月佳子さん（都立農産高校） 奈良県

の仏教系高校教師がまとめた「男女共修家庭科の必修化について」をはじめ、男女共修家庭一般の実践例（領域別の指導目標と指導項目）など用意しましたのでお持ちください。

●大平初枝さん 明星学園高校では女子差別撤廃条約以前に実施したわけですが、これは私学だからこそできたと思います。

●望月一枝さん（茗溪学園中・高校） 中学校は共学、高校は女子のみでこれから共修にしていこうと考えています。本校では高2で個人課題研究（卒論のようなもの）を2単位で先生を選んで二百〜四百ページの論文を

書くが、児童虐待、出生率の低下などを課題にシンポジウムに出かけながらやってきた生徒が「性別役割分業が基本的な問題点だったね」といいます。高橋さんが新聞の切り抜きとおっしゃったけれど、テーマを決めて切り抜きをしていくと事態が見えてくるので良いと思いました。

●森田春美さん（関東国際高校） 来年度から週5日制との関係で男女とも3単位になり、高2には長期の海外研修制度があり、被服実習は選んで通ったほうが良いのかどうかを考えているのですが。

●福留美奈子さん 京都府立高校と都立高校で計5年共修の家庭科を教えました。農業高校の34〜35名男女約半々のクラスでハッピーの製作をしました。基本的には家庭科の中で実習をどうとり扱うかということだと思えます。実習は他の教科にない子どもたちの生活を通させるということに独自性があると思うのです。実験・実習を通して子どもたちにどういう力をつけさせる必要があるかというところから、被服製作または調理実習が必要だということが出てくるのではないかと思います。製作することによって技能教育だけでなく現代の衣料事情も見えてくるわけです。男女共に被服製作は非常に有効だと思います。●小林善久さん（桐朋高校） 高1・高2で2時間あるホームルームの1時間を割りふ

って当面は生活一般で模索しようとしています。まずは、男ばかりなので家庭科教師を迎えて考えるということ、今年二名程、日本女子大の通信教育で家庭科教師の免許を取得するために通うことになっています。家庭科の免許を持つ者が何人かいるという受け皿作りをしていこうかと考えています。

そのほか、話し合いのなかでは、高校普通科に技術科がないことから初めて、中学・高校六年制の私立男子校の場合には、神奈川県附属中・高校のように技術科の設備と教師が揃っている学校も考えられ、そのような学校では、「生活技術」としても良いのではないかと、4単位を設けることについては問題はないのだが、家庭一般は歴史的にも女子のための教科内容という印象が拭いがたく、男子校で、男子校という特色を生かして家庭科を内容的に意味のあるものとしてやっていくにはどうしたらいいか昨年からずっと模索していて、頭をかかえている状態で、むしろ家庭科のほうを解体してほしくらいです、との本音も出てきました。

今後の課題としていろいろな意見を考えたいということになり、私立高校の教師27人、公立高校教師7人を含む55人の参加者で話し合われた学習交流会を閉じました。

## 国際婦人年連絡会の動き

和田 典子

92年3月から4月にかけて、連絡会は活潑に行動しました。その主なものは次の通りです。

### 一、「子どもの権利条約」に関して

(1) 外務省の起案についてのヒアリング「条約」の批准案が国会に提出されるとの情報を得ましたので、教育・マスコミ委員会と家庭・福祉委員会では、外務省国連局人権難民課を3月18日に訪ね、安江課長より正規の訳文と批准案の説明書の内容について解説をうけました。

時間が短く、詳細な点までできませんでしたが、要約すれば「出入国管理」に関する二三ヶ条を除いて留保条項はなく、批准できると解釈しているとのこと。つまり国内法・行政とも現行のまま、予算措置も不要と断定し、国際的な体面上批准が必要との意向でした。

(2) 右、外務省の対応をふまえて、連絡会では要請文を起草し、全団体の検討を経て、4月8日10時、要請行動にとりくみました。

首相、総理府、衆参両院議長、外・文・厚・労・法・自各大臣、文・外委員会、各政党本部計18ヶ所を訪ね、要請書を手交しました。内容は「条約」理念実現にむけて審議をつくり、条件整備の上批准すること、そのため、現実を生じている諸問題を打開できるよう実効ある立法、行政措置および具体的方策を示すこと、を求めたものです。

### 一、従軍慰安婦問題について

(一) 強制連行の事実を調査し、資料を公開すること  
(二) 生存する犠牲者や遺族に謝罪と補償を早急におこなうこと  
(三) 歴史教育の中で事実を語り伝えること  
(四) 他のあらゆる犠牲者に対しても謝罪と補償をおこなうこと。そのためにも戦後補償の立法化を急ぐこと  
右の要請（要約）を首相ほか関係者に提出しました。

一、宮沢首相への面会申し入れ  
婦人問題企画推進本部長である首相に対し

て、恒例の面会準備をすすめています。

申し入れ事項案は左の六項目を準備中。

- (一) 地球環境サミットへ出席の政府代表団に民間女性の参加を
- (二) 児童の権利条約の批准について
- (三) 女性の国会進出と選挙制度改革を
- (四) 朝鮮人慰安婦問題
- (五) ユニフェムへの増額
- (六) 婦人問題企画推進のためナショナルマシナリーの強化

### 一、女性の国会進出の推進と選挙制度改革についての要望案（要約）

既報の女性国會議員に対するアンケート調査の回答結果、党派をこえて出された要求事項をふまえて、政府ならびに政党に左記のすみやかな実行を申し入れる。

- (一) 選挙制度改革は、第百四国会での議員定数按本是正の決議を緊急に実行すること。小選挙区制は、女性の国会進出が困難になるとの意見を尊重すること。
- (二) 女性国會議員の比率を高めるための制度、方策を具体化すること。
- (三) 政党は、候補者公認にあたり、女性の比率を高めるとともに、名簿順位も国会進出が具体化されるよう考慮すること。

## 世話人会報告

△二月十五日▽

### ◎報告

- ◆渋谷女性センターへの団体登録が承認され使用（無料）できるようになった（和田）
- ◆浜松市の共修運動と県内共修状況と教委交渉のようすについて（和田）
- ◆宮城高教組の学習会にて講演、男子校の家庭科導入についての本音を聞いた（和田）
- ◆アジア女性会議が4/2・4/4・4国立婦人教育会館で行なわれる。共修については、共修の意図、子どもの反応・運動などについて、浜松、東京から発表がある予定（半田）

### ◎協議

- ◆母親大会に参加するかどうか―榎本さんが役を引きうけてくれることになり参加。
- ◆学習交流会―チラシ配布の範囲、直接呼びかける学校の範囲やハガキの印刷、宛名書の分担をきめた。
- ◆91年度総括案、ほぼ原案通り、決算案も出席者全員了承した。

（持田ナミ）

△二月二十九日▽

◎文部省・国会への働きかけ―教育助成局長

▼総会の総括―世話人会あつきの総会で淋しい。「会」を世話人が背負い込んでいる。総会に懇親会を含めたらどうか。

▼私学部（文部省）への働きかけ―必修についてどう指導しているかたす。（16ページ参照）私学の校長会に働きかけることも必要。

▼その他―日本の中だけの男女平等ではなく開発、平和を入れ世界的な視野で、魅力的なキャッチフレーズで運動も。宮城で女子校生が男子校生に共修のアンケートをとったら大人が考えているような答だった。まだまだ男女共修は浸透していない。

（持田ナミ）

三月二十六・二十七日、家庭科教育学会のセミナーが東京で開かれました。テーマは「新教育課程推進の諸問題とその対応」で百数十名が参加、桜井視学官の指導要領解説と小・中・高の実践報告、ディスカッション等がありました。これまで消極的にみえた学会も、共修に向けて動き出したようで、参加した会員も共修をすすめるための提案をしました。詳細は次号でおしらせします。

に面会を申し入れて断われ続けているので、とりあえず要請書（巻号8ページ）を郵送し、参議院文教委員会の状況なるべく早くきこうということになりました。

●新年度の世話人の担務―連絡会―和田、母親大会―榎本、マスコミ―石川の各世話人にきまりました。

●会報の製本について―93年度にまとめるために次のことを検討し始めることにしました。●各号の残部はどの位か、●製本のしかたと経費、●どこに置いてもらうか（大学、図書館、婦人会館等）、●贈呈か売るか。

●会報の製本に関連して「運動をいつまで続けるか」が話題になり、「94年の共修実施までは絶対力を抜くわけに行かないが、それ以後のことについては結論を出す必要はない」と話し合いました。

（梶谷典子）

△三月二十一日▽

なごり雪で肌寒い日に八名の参加。日経新聞記者の「ネットワーク」の取材もあり、思いついた話に花の咲いた会でした。

報告一。三月三日に和田さんが文部省を訪問。会報巻号で報告した文書の趣旨を説明して回答をきいたが、三十分と短時間でもあり

## 女と男の家庭科新時代をめざす

### 「We」新たに読者の会より発刊

芦谷 薫

十年間「自立した女と男を・人間らしい生活・差別のない社会を育み創り出す」の理念をかかげて発行され続けてきた月刊紙「新しい家庭科We」は、92年2・3月号で終刊となりました。

編集長でありウイ書房をきりもりしてこられた半田たつ子さんの男女共修家庭科実現への並々ならぬ願いと情熱で、教育やくらしにかかわるさまざまな問題をとりあげてきた「We」は、学校関係者だけではなくひろく市民にも読まれ、ひとりひとりの生き方や物の見方を問い直し、新しい視点や発想をつむぐ場となってきました。この10年の間に家庭科をとりまく状況は大きくかわり男女共修の家庭科の実施を目前にした今、「We」がなくなるのは何としても残念と考える読者の声の高まりがあり、10年間のWeの理念を引き継いだ「女と男の家庭科新時代―We」を読者の会「Weの会」から発行することになりました。既に四月号（特集 くらしと教育をつなぐ）

よい回答は得られなかった。（15ページ参照）

報告二。四月二日より開かれるアジア女性会議「教育と女性」分科会の報告者について。その中で、全国の男女別学の高校を調査された方がおり、その数は非常に多く、そういう別学校をなくす運動を広く展開していきたいという話があった。（12ページ参照）

議題一。四月四日の集会、総会について。役割分担と、総会に提案される総括、方針、決算予算、世話人についての案の確認。今まで分担していた一般会計とパンフ会計の仕事などを榎本さんがまとめてひき受けて下さることになった。

会則に相当する「運動のすすめ方」の文章が古くなったので修正する。

議題二。会報夏号内容案の検討。

（磯部幸江）

△四月四日▽

▼学習交流会の総括―参加者55名、予想外の盛会、呼びかけハガキ348枚が効果あり。内容もよかった。男女共学の学校と男子校では共修に対する意識がちがう。共修校が多くなれば男子校も変化するのではないかな。交流会で五人の入会者あり。一年一回の交流会では足りないのでは。共修の公開授業が必要。

## 家庭科の先生がベスト・メンに

日本有職婦人クラブ全国連合会は、毎年「男女平等な社会づくりに貢献した」男性をベスト・メンとして表彰していますが、92年のベスト・メンには、現場の家庭科の先生が選ばれました。大阪市立住吉中学校の村正雄さんです。住吉中では71年から「技術・家庭」の共修を実施、85年から三人の男性の先生が技術と家庭を兼任することになったそうです。

が発刊されており、「家庭科へのラブコール」では、理科や社会科の教員からの提言、そして、家庭科の免許をとって、今まさに家庭科の男性教師になろうとしている若者、そしてすでに現場で教えて二年目に入ろうとしている男性教師などの書き手が加わり、まさに、「女と男の家庭科新時代」

購読申し込みは、「WE編集室」へどうぞ。

（郵便振替東京3・754314

☎045・974・3101

横浜市緑区市が尾町一六―八）



## アジア女性会議で 男女共修の家庭科に 深い理解を得る

半田たつ子

四月二日から四日まで、国立婦人教育会館でアジア女性会議が開かれた。85年、フィリピンの第一回会議から七年ぶり二回目。私は「女性と教育」分科会のモデレータとして参加した。「会」からは世話人の柴田栄子さんが、発題者としてすばらしい実践を紹介し、大いに気を吐いたことを報告したい。

アジアからのゲストは、台湾、韓国、中国……パキスタン、ベトナム、ネパール、バングラディシュなど十八人、いずれも様々なネットワークの代表、政治的・経済的・社会的・文化的視点から、女性が低位におかれてきた構造を変えることで、オールタナティブなアジアを創り出そうと、その行動計画、方法について話し合った。

三日は、九時から五時まで分科会、「アジアの各地の女達は、十分な教育を保障されているか、性別役割を温存し、固定化する教育が行われていないか……地球に平和をもたらす、アジアに住む私達が、より人間らしく生きるための開発教育をどうすすめるか」を

参加者全員で討議した。

デレス・クイントス・テレシータ（フィリピン）、デン・ビジュン（中国）のゲストスピーカーの他に、日本からは、甲斐田万智子さんが開発教育について、大沢富枝さんが静岡の高校入学者選抜の男女差別について、賀谷恵美子さんが東京の男女平等教育を妨げている現状について、埼玉の柴田栄子さんが御自身の家庭科観と、授業を通して、生徒がどのように変わっていったかを力強く報告。

甲斐田さんは、ユネスコで四年間働き、ロンドンで開発教育を学びマスターを取り、グーテンでも暮らししてきた人、佐世保市から一歳八月の子供を連れ、妊娠九月の大きなお腹で参加。二子の出産が終わったなら、今度はインドに二、五年行くという。日本の男は、第三世界の女を性的に抑圧している。フェミニストの視点を欠いた開発が、男女の不平等を一層際立たせることになっている。日本の援助は、募金と物を送ることではなかった上に、公害や環境破壊を生んでいる。この構造的暴力を理解しなければならぬと森林、えび・まぐろなどの実例を挙げた。水一つ、燃料一つに南の国で女達がいかに大変な思いをしているかを知ること、そのためにスタディツアーを計画することも必要だ。困難な状況の中で、アジア・アフリカの女達がいかに頑張っているかを知って、勇気づけられ、そ

から日本のODAを改善することが大切と話し、子育て真最中に、こういう視点で活動する女性が現れたことを力強く思った。

柴田さんの「いわしとえびと日本人」の授業は、甲斐田さんの提案がすでに教育の場で実現されていることを実証し、テレシータ、デン両氏にも感銘を与え、参加者の家庭科観を変えた。また「人生設計」の授業で、経済的自立のない主婦の立場の弱さが夫婦の愛の質まで変え、生き甲斐のない母親が子供の自立を奪いやすいことに気付かせた。男女共修の家庭科によって女と男の関係を変え、アジアの女性と連帯する第一歩にしたいと結び、大きな拍手を浴びた。家庭科の枠組みを広げ、今日の緊急のテーマと切り結んだ成果である。国際キリスト教大の助手という男性がただ一人参加していたが、彼はこの会議でマイノリティを実感したと、男女が隔てられて育ち、学び、くらす問題点を述べた。公立の男女別学校をなくし、家庭科の男女共修をすすめる意義を、全員で確認した。

日本の女が性的抑圧を受けなくなったとしても、日本の男を変えない限り、アジアの女をおとしめることは、全体会でも、各分科会の報告でも、くり返し強調された。男女共修の家庭科に、開発教育、環境教育を位置づける必要性を痛感した。

## マスコミの

### 取材あいつぐ

和田典子

三月に入ってから「会」についての情報がいくつかの新聞で報道されましたが、面接した記者の多くが新人だったせいか発足当時のいきさつから解説せねばならなくなっていることに、改めて過ぎ去った年月を想わせられたものでした。以下、掲載順に各紙の記事を載せてみます。以下、掲載順に各紙の記事を載せてみます。

#### A. 三月七日、日刊「赤旗」女性欄

「高校家庭科94年度から共修——男女が共に学ぶ新しい時代に」

をみだした、10面の%をあてて「男女共修になるまで」の年表、「家事が、女性が、家庭が見えてくる」と題した和田典子の談話、運動の趣旨と現在の問題点。男性家庭科教師、京都府立西舞鶴高校、山内拓司さんの三年間の経験「被服や調理の実習、楽しいこと新発見」の報道と、新しい動きとして紹介していました。

B. 三月十日、読売、家庭とくらし欄「女も男も家庭科新時代」特集、連載10回の最終回⑩で……。

みだしは、「ぼくも作る人」の時代を——

男女共修実現へ苦闘

9回にわたって小・中・高の共修家庭科の授業実践を報道してきたのをまとめて「会」の設立からかわってきた和田の回想を柱にした内容です。男女が登場する新教科書の写真もかかげ、十年をこえる「会」の地道な取り組みと、その過程での内外世論の変化や達成できた共修の意義とよるこび、残された課題などを紹介しています。

C. 四月六日、日経夕刊、婦人家庭欄特集連載「ネットワーク」で。

地域の女性グループの一つとして3/21、4/1の二回にわたって取材をうけたものです。刊行物、パンフ、リーフなど既刊の資料をわたした「会」の創設趣旨や会員の現勢のほか運動の足どり、当面の課題などの情報を提供しましたが、全国組織の登場は例外的でした。

#### D. 四月二〇日、神戸新聞、教育欄

みだしは、苦悩と不安の私立高校——家庭科男女必修で研修会、小みだしは、他教科単立削減などネットワーク、実施校からは共に学ぶ尊さの指摘（一四日には高知新聞家庭欄にも）

右の記事は、4/4の集会を取材した時事通信の報道が、地方紙に掲載された事例で共修実施上のネックや私立「進学校」の本音、文部省の意見などを紹介しています。

E. 足立区教育委員会編集、女性総合センター広報誌、No.18、三月十五日号

## 高教組春闘学習会で 和田典子先生の講演会

宮城県 西原 典子

一九九二年二月一四日・一五日、高教組主催の春闘学習会に和田典子先生においでいただき、分会、支部の代表者、約80人を対象に「いのちと暮らしを学ぶ家庭科男女共修をすすめるために」の講演会をもちました。

「春号」に報告のとおり宮城県は男子高校の多い県なので、男子高校で家庭科必修をどうすすめたらよいかを中心に、1. 家庭科の共学必修はなぜ必要か、2. 「差別撤廃条約」家庭科、3. 共学、必修家庭科で何を教えるか、4. 家庭科を学ぶ今日的な意味について、など重要な問題点を中心に、説得ある話をしつづいて東京の男子高校訪問の話を詳しく

とか、男子高校で進める場合の問題点、新指導要領と教材との関係など、質問も続出しました。

夜の交流会は、仙台市内男子名門校の先生を中心に家庭科教員と2時間活発な討議をしました。男子高校のホッペを聞いたことは、これからの運動をすすめる上で大変勉強になりました。I高校は東大から私大まで100%進学という学力の高い等質集団の高校で、家庭科4単位は無理ということで「生活一般」2単位数がだされています。受験教科の単位を減らしてまでも家庭科をする理由が納得できない、家庭科の指導内容が本当に人間教育として生徒を変えるものとなっているかの疑問がだされました。生活重視の視点が受験教育の中では納得しにくいようで、男女の本質的平等が教育の世界ですら定着せず、底に男子の優位性がのぞくことが感じられます。ナンバースクールがどうすすめるかは、県下の男子高校への影響大で、そのためにもこれから粘り強い討議と共学の授業実践を通しての理解の必要性を感じます。高教組では、男子高校と家庭科のリリース討論を組合新聞を通して積極的にすすめておられます。きっかけを作った下さった和田先生に深く感謝申し上げます。

## 文部省 教育助成局訪問

和田 典子

### △要請のいきさつ▽

春号でお知らせしたように、男女共学・必修の実施を二年後にひかえながら、施設・設備の整備や家庭科専任教員の配置見通しが立たないことが、男女必修上のかべになっています。「会」ではこの問題の解決こそ現在の緊急課題と考えとりくみをつづけていますが、昨年までの行動で、①文部省では、設置者の方針に応じて、教室や教員などの物的条件の整備をすすめ、平成六年度からの必修実施に努める意向であること――ただし、私立学校については初中局、職業教育課の担当ではない――、②前倒しで共学必修を始めた高校には教師の配当もしていること、③しかし、教員定数については現行の定数法わくにしばられること、がわかりました。ところで改訂学習指導要領では、総単位数は現行のままです。ですから、定員わくの変更はないわけで女子

## 私立男子高校訪問

宮城サークル 高橋 香代  
西原 典子

### (1) 3月4日 東北高校

1学年22クラス(普通12、商業10)、4年度は20クラスに減。

「生活一般」2単位の予定。代替として体育、情報処理にしたい意向。

施設、設備皆無、急増対策かプレハブの校舎もたっている。建築の見直しなし。

卒業後の進路は多様で、調理専門学校にゆくの、毎年50、60名いるとのこと、3年での食物選択をおくことをすすめたが、今まで家庭科のないところではそのような発想も考えられない様子であった。生活一般2単位としても、20クラスだと40時間になり、教員2、3人は必要だが、はたしていかどうか、できれば男子の教員を求めている。

### (2) 3月10日 東北工業大学電子工業高校

1学年13クラス「生活技術」4単位の予定か? 施設・設備 家庭科教室はないが、実験室などがあるので、それを改造しての使用も考えられるという。具体的取り組み

の検討はこれからであるが、生徒の生活力の欠如などからもその必要性は感じており、前向きにとりくもうとする姿勢はうかがえた。

### (3) 3月17日 東北学院榴ヶ岡高校

普通高校であり、大学受験については県立ナンバースクールに追いつき追いこせを目指す高校。家庭科必修にとまどっているというのが、はじめの言葉であった。家庭科は家庭でやるべき、受験にとって必要なし、息抜きの時間になるのでは、家庭科教員がはたしているのかなど、疑問がだされた。「生活一般」2単位、内容は情報処理を考えている。教員の間では、家庭科は話題にもなっていない。

3校とも本格的な検討はこれからということであった。職業高校では決められているのだから、実施を具体的に考えるべきと肯定的にとらえていたが、進学中心の学校では、以前に訪問したナンバースクールと同様否定的であり、科目としてはおかなければならぬが、何とかやらない方法はないかという気配が感じられる。

施設についても新たに建設という姿勢はどこでも見られなかった。

教員がはたしているのか、きてくれるのか、私立の場合特に課題と考えている。

必修が男女必修になれば、単純計算でも教員定数は倍加しなければなりません。家庭科がふえれば、他教科の定数をへらすことが条件になります。

加えて、高校生人口の急減期に対応した学級数の削減や、教育課程そのものの再編成、五日制なども急浮上してきています。たとえば都立O高校では教員の1割が転出を強いられているなかで、家庭科だけが増員となり、これでは職場にいきりを残しかねません。

家庭科教員の定員増の見通しが立たない背景には、こうしたいくんだ実態がからんでおり、その見通しのなさ、教育課程表に男女必修「家庭」の位置づけをためらわせるという結果を生みだすことも結びついているわけです。

春号8頁の「要請」は、こうした問題を切りひらくためのもので、抜本的な「定数改善計画」を要求したものでした。(くわしくは要請の内容をごらん下さい)

### △文部省側の応答▽

昨年の暮から始めた、教育助成局、財務課法規係官との面会は、1/6、1/9、1/10、1/13、1/14、1/18、1/20、2/18、2/20、3/2と電話のやりとりを重ねた末、よ

うやく実現しましたが、決定したのが前日午後で、翌三月三日午前10時30分、11時というあわただしさは「官僚的対応そのもの」でした。応待は、法規係長白間竜一郎氏、こちらは「会」から和田、家教連から丸岡会長が同行しました。30分の応答で確かめた要点は次の通りです。

(1) 第四次教職員定数改善計画は、12年前にきめたもので、平成三年度で終了し、平成四年度予算案も提出済みである。また補正予算の対象にはできない。

(2) 次の計画をどうするかは、日下検討中で、そのために現在、全国規模の悉皆調査を実施、集計中である。この夏にはまとまるので、その結果をみて、じっくり考えたい。

(3) 平成四年度に、高校40人学級は認めることになったし、平成3年度に家庭に関する学科の教員及び実習助手の増員予算は出している。

(4) 実技・実習の班別学習は念頭においているが、平成四年度の予算にはのっていない。今後の課題と考えている段階である。

(5) 当方で扱うのは公立校のみで、私学については、私学部が担当している。

(6) 情勢は流動的なので、世の中の意見をきいた上で、じっくり考えて立案したい。



## 乾議員と 文部省を訪問

梶谷 典子

教育助成局訪問（15ページ参照）によって、教員増や私立学校での共修実現のためには更に運動が必要であることがはっきりしました。和田、梶谷の二名は、四月二十八日参議院議員乾晴美さん（連合）を訪問し、ひき続いて文部省にも行きました。

「文教委員会で質問を」と乾さん

### 92夏のフォーラム

恒例の夏のフォーラムは8月1日、3日、神戸は六甲山の裏山にある関西学生地区セミナーハウスで開かれます。子ども活動にも山歩きにも自然たっぷりな快適な場所、関西の多彩なゲストをむかえ、教育とくらしにかかわる種々の分科会や、映画会、講演会、パフォーマンスが展開される予定。

※問い合わせ先 中村英之

☎06・437・9985  
〒661 尼崎市武庫之荘5-1-1201

### 第27回 家教連夏季研究集会

とき 一九九二・七・二八、二九、三〇

ところ 愛知県犬山市 迎帆楼

テーマ 男女がともに学ぶ家庭科

記念講演 脳の発達と子どものからだ

久保田競（京大霊長類研究所）

日程（第一日）開会行事、記念講演、基礎

講座6、ミニ講座、交流会

（第二日）小・中・高・障別分科会

（第三日）模擬授業4、全体会、閉会行事

参加費 五五〇〇円（学生三〇〇〇円）

宿泊費 一泊一二五〇〇円

申込先 〒四六七 名古屋瑞穂区高田町

二二三二二 小川敏子 ☎〇五二・八五

一・三九二三 郵便振替名古屋6-1-12

三七九九 第27回夏季研究集会愛知大会

乾さんには委員会出席直前の時間を少しだけさいていただくことができ、教育助成局への要請文を手渡しして説明、教員増の必要をう

ったえました。乾さんは文教委員会で質問すると、はっきり言ってくださいました。

教員増は手つかず——文部省

文部省ではまず高等教育局私学部私学助成課を訪ねてみましたが、「家庭科の施設はこれらの担当ではない」とのこと。それでもいろいろ質問してみてもわかったのは、「私学助成課で行っている『助成』は、私学経営全体に対してのもので、使用目的をこまかくめることはない。教育内容については関知しない。ただし、コンピュータ導入については特別に助成している」ということでした。そして、家庭科の施設設備については、私立学

校でも職業教育課の担当だときいて、職業教育課を訪ねました。

職業教育課助成係長若井祐二さん、事務官齊野貴浩さんは質問に積極的に答えてくださいました。「家庭科の施設設備については平成三年～七年の五か年計画を実施中」「私立校についても申請があれば費用の1/2を助成する。自治体で更に1/2助成するところもある」「私立校からの申請もふえつつある」ということでした。そして「私立校の意識を変えるための運動が必要なのは」という意味の発言もありました。

最後に私学部私学行政課に行ってみました。「ここでは学校法人の経営を扱っていて教育内容、教員数等に関知しない」ということでした。